

# 週報みえぎよれん

★浜に身近な話題をお届けする関係者向けミニ情報誌★

編集・発行  
JF 三重漁連指導部  
TEL:059-228-1205  
FAX:059-225-4511

本紙は三重県漁連ホームページ (<http://www.miegyoren.or.jp/>) での閲覧を推奨します (PDFファイル)。

## 森・川・海 ～清流がつなぐ未来の森造成運動

16日、「森・川・海がつなぐ未来の森造成運動」が岐阜県加茂郡白川町で開催され、三重県から漁業関係者約240名が参加した。

今回で16回目となる岐阜での植樹。冒頭あいさつに立った永富漁連会長は、「海には森からの養分の恵みが不可欠で、自然の水の恵みに感謝したい。」とあいさつした。

今年は従来の植樹ではなく、昨年植樹した場所の下草刈りの実施となり、参加者らはこれからの成長を楽しみに、急斜面によろけながらも一生懸命作業した。



← 作業に先立って行われた  
開会式

→ 青空の  
下行われた  
下草刈



## これからは女性も役割発揮を！ 漁協女性部関係の会で

### 【みえ花しょうぶフォーラム】

12日、アスト津で第1回みえ・花しょうぶフォーラムが開催された。

これは、県内の女性の団体が業種やキャリアを超えて交流を図るため、今年度初めて行われたもので、三重県漁協女性部連合会をはじめ、JA関係、商工会議所関係など6団体の約200が参加した。

(三重県女性連からは21名)

主催者を代表してあいさつに立った三重県中小企業レディース中央会の伊藤会長が会の意義を説明、来賓あいさつでは、鈴木英敬知事が「これからの時代はどの業界も女性の役割が大変重要で、このフォーラムをきっかけに地域振興などに加わって盛り上げてほしい。」とあいさつした。

各団体から事例発表が行われ、三重県女性連の小寺功子会長が三重県の漁業について紹介し、魚食普及、環境保全活動などを紹介した。

続いて行われた記念講演では、福島県スパリゾートハワイアンズのトップダンサーとして活動していたハーラウ・ラウラーナニ・リノラニあゆみ(ダンサー名)さんが、東日本大震災からの復興における女性の活躍について話したほか、参加者も交えフラダンスを踊るなど会場を盛り上げた。

また、会場では桃取町と菅島の女性部の皆さんがサメのタレ、タコの干物などの展示販売を行った。

この集いは来年、JAの女性連が中心となって開催される予定。

→ フラガールと踊る  
女性部の皆さん



← 桃取町、菅島の女性部による展示販売

#### 【第14回全国女性連フレッシュ・ミズ・プログラム】

14～15日、若手女性部員を次世代リーダーに育てることを目的に開催されている女性連フレッシュ・ミズ・プログラムが大分県別府市で開催された。

全国女性連の森会長らのあいさつの後、大分県の女性連から姫島名物さかな味噌「かなんど工房」の取組について事例報告、グループに分かれ全体討論などが行われた。討論では高齢化などによる人材不足、活動の方向性などについて、全国から参加した漁協女性部の皆さんが意見を交わしあった。

#### 本年度のおさかな料理コンクールの優勝者に伊勢まぐろ贈呈

先に開催された平成25年度三重県おさかな料理コンクール(三重県水産物消費拡大促進協議会主催)知事賞の副賞の贈呈が行われた。

今回の知事賞は「和薫る魚介弁当」を作った相可高校1年生の崎楓真(さきふうま)さん。今回、副賞が「伊勢まぐろ」であったため、希望により13日に行われた台湾の高校生との交流で活用することとなった。

当日贈呈した伊勢まぐろは35kg以上のもので、魚を目にした崎さんは「予想以上に大きくてびっくり。大物をさばく機会はないので、とてもうれしい。」とっこり。伊勢まぐろとともに撮影後、村林新吾先生が相可高生、台湾の高校生の前で説明し、崎さんと共に解体を行った。最後に全員でお寿司を作り、初めて挑戦した台湾の高校生たちは悪戦苦闘しながらも、自分で作ったお寿司をおいしそうにはおぼっていた。



おさかな料理コンクール知事賞の  
相可高校1年 崎楓真さん